

機器仕様書

品名 太陽光発電システム用
パワーコンディショナ

型式 GPS55C

サンテックパワージャパン株式会社

東京都新宿区西新宿 3-6-11 西新宿 KS ビル 6F

電話(03)3342-3838

■品名 屋外用集中型 パワーコンディショナ	■型式 GPS55C	
■添付資料 		
■特記事項 		
■仕様の変更 本仕様書の内容と納入製品が異なる場合があります。あらかじめご了承ください。 なお、ご購入に際しては、正式仕様書の取り交わしをして頂けますようお願い申し上げます。		

1. 適用範囲

本仕様書は低圧系統連系太陽光発電用屋外用集中型パワーコンディショナ「GPS55C」について適用する。

2. 周囲条件

特に指定のない限り、標準使用状態を次の範囲とする。

- (1) 設置場所 屋外・屋側・屋内（屋側とは軒下など直接雨のかからない建物の屋外側面）
- (2) 動作温度範囲 -20 ～ +50℃（直射日光が当たらないこと）
但し、40℃を超え 50℃以下の周囲温度では、内部温度により発電電力を抑制することがあります。
- (3) 保存温度範囲 -25 ～ +60℃
- (4) 湿度 90%RH 以下（結露無きこと）

3. 全体構成

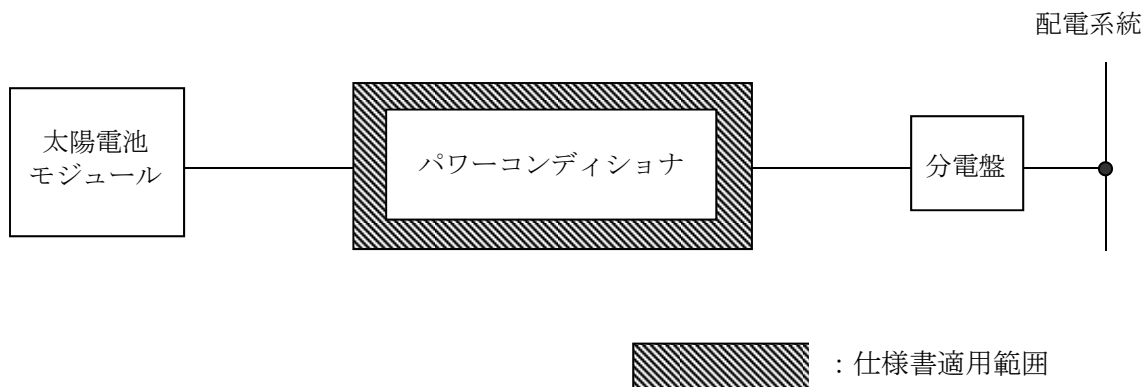


図3-1 全体構成図

4. 仕様

(1) 共通定格

定格入力電圧	DC330V
入力電圧範囲	DC50～450V

※電気設備技術基準の対地電圧は450V以下であることと規定されています。従って太陽電池の組み合わせにおいて、いかなる条件（環境、太陽電池特性を含めて）においても450V以下となるようなシステム設計をしてください。450Vを超えた場合には直流過電圧を検出し、太陽電池過電圧（F3エラー）が表示され、パワーコンディショナは停止します。

入力回路数	4回路
消費電力	待機時消費電力 1W未満 50Hz：25VA未満 60Hz：30VA未満 発電時 0W／0VA

※発電時に関しては、パワーコンディショナ自体の消費電力をすべて太陽電池側でまかないます。

(2) 系統連系運転時定格

定格出力電力	5.5kW（力率0.95時）、5.5kW（力率1.0時）
定格出力容量	5.79kVA（力率0.95時）、5.5kVA（力率1.0時）
最大入力電力	最大入力電圧／1回路、最大入力電流／1回路の範囲内
動作電圧範囲	DC55～450V
定格出力電圧	AC202V(単相2線式、但し連系は単相3線式)
定格出力周波数	50Hzまたは60Hz
最大入力動作電流	最大42A（最大14.5A／1入力）
短絡電流	最大44A（15.0A／1入力）
最大出力電流	28.7Arms
定格時電力変換効率	95.0%（JIS C8961による）（入力電圧DC330V時、力率0.95時） （参考）95.5%（JIS C8961による）（入力電圧DC330V時、力率1.00時）
定格力率	0.95
指定力率（JET認証範囲）	0.80～0.95 0.01刻みで可変（出荷時0.95）
高調波電流含有率	総合5%以下、各次3%以下
連系運転範囲	連系点電圧 OVR、UVR設定値による 系統周波数 OFR、UFR設定値による
雑音端子電圧	VCCI クラスB
突入電流	なし
冷却方式	自然空冷（内部拡散FAN有り）
騒音	定格出力時 30dB(内部拡散FAN運転時) ※パワーコンディショナの前面中央から1m離れた床面から高さ1mの位置において測定。（JIS C 8980 11.9騒音測定による）

(3) 主回路方式

変換方式	連系運転時 電圧型電流制御方式
絶縁方式	トランスレス方式
スイッチング方式：	正弦波PWM方式
接地方式	直流回路側は非接地方式とし、交流出力の中性線が配電線の柱上変圧器側で接地される方式とする。

(4) 制御方式

電力制御方式	最大電力追尾制御(MPPT)
補助制御機能	自動電圧調整(有効電力制御：107V以上)
運転制御方式	自動起動・停止(起動時ソフトスタート)
起動電圧	DC90V±3V以上150秒以上継続または、 DC150V±3V以上10秒間以上継続
停止電圧	DC50V±2V

(5) 電気的特性

絶縁抵抗：	1MΩ以上
耐電圧：	AC1500V 1分間

(6) 直流開閉器(バイメタルサーモスタットによる保護機能付き)

定格入力電圧	DC330V
最大入力電圧	DC500V
最大入力電流	DC15A

(7) 表示機能

各LEDの表示機能

連系ランプ	緑色LED (連系運転中点灯、連系準備中点滅)
抑制ランプ	黄色LED (電圧上昇抑制 (進相無効電力制御、有効電力制御) 抑制中点灯) パワーコンディショナに運転に問題が発生しているときは、「連系」、 「抑制」ランプがともに点滅。
夜間表示	なし
表示範囲	発電量[kW]、積算電力量[kWh]、電圧上昇抑制累積時間[分]、点検コード
表示精度	±10%以内 (F. S. =5.5kW)
点検コード	最新の点検コードから順番に最大8個表示する

(8) 外部停止入力端子について

OVGRなど異常停止信号でパワコンの運転を緊急停止する場合の接点入力端子です。

外部停止入力端子機能を使用する場合は、スイッチ(S016)拡張機能の1をONに切り替えてください。
(初期設定ではOFFになっています。)

外部のスイッチ信号(設定信号)は、無電圧接点型で接続してください。

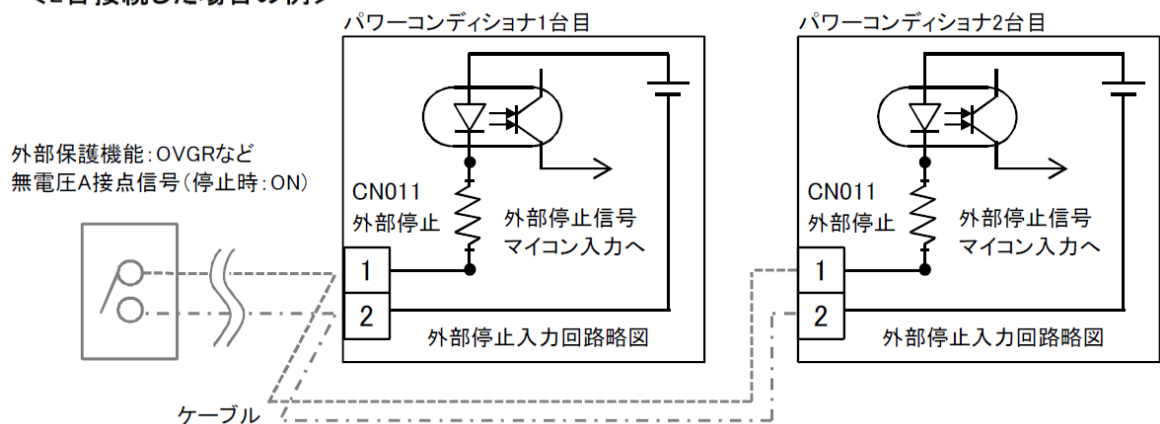
外部接点が“閉”の時に、運転中のパワコンが停止します。(F37表示)

外部接点が“開”で停電手動復帰時は点検コードE99を表示し、手動復帰となり、そうでない時は自動復帰します。“閉”時の接点電流は約10mA、“開”時の接点間電圧は約8Vです。機器側コネクタの適用電線範囲はAWG22~16(参考:約0.3mm~1.25mm/0.65φ~1.3φ)のゲージです。

複数台接続で分岐する際はケーブル選定に注意してください。

電線剥きしろは、9~10mmとしてください。

<2台接続した場合の例>



※複数台設置する場合は極性がありますので、配線が交差しないようにしてください。

1台目のCN011の1から分岐したケーブルは、2台目のCN011の1へ接続し、2から分岐したケーブルは、2台目のCN011の2へ接続してください。

(3台以上接続時も極性に注意し、隣のパワーコンディショナから分岐接続してください。)

(9) 寸法・質量等

製品寸法	W706×H407×D214 (mm)
製品質量	約 26kg (壁取付け板・保護ガード等含む：約 30kg)
梱包寸法	W785×H353×D500 (mm)
梱包質量	約 33kg
塗装色前面パネル	ウォールベージュ (NW-K21) マンセル近似値 10YR 7/0.5 溶融亜鉛めっき鋼板
本体	ウォームグレー (NW-K19) マンセル近似値 9.4Y5.6/0.5 溶融亜鉛めっき鋼板
ガード	ウォームグレー (NW-K19) マンセル近似値 9.4Y5.6/0.5 カラー鋼板

(10) 通信方式

RS485 独自通信、又は MODBUS (出荷時設定は RS485 独自通信) の選択式
パワーコンディショナ接続台数 RS485 独自通信、MODBUS とも最大 10 台
(ただし、接続する機器によって接続上限台数は異なります)

(11) その他

多数台連系対応型単独運転防止機能 (ステップ注入付周波数フィードバック方式) 搭載
新FRT (系統事故時運転継続) 要件対応

力率一定制御 : 有効電力一定方式
0.80~1.00 (0.01毎) ※力率0.96~1.00はJET認証仕様外となります。

電圧上昇抑制 : 無効電力制御および有効電力制御搭載

復電時の連系復帰 : 手動/自動選択可能

防水・防塵性能 : IP55 (配線部および水抜き孔を除く)

運転・停止スイッチ : 本体搭載 (リモコン無しで動作可能) ※カバー部に南京錠用の穴有り

出力電力抑制機能

太陽電池の発電能力が、パワーコンディショナの定格出力を超える場合、自動的に出力する電力を制限します。

入力電力抑制機能

太陽電池からの入力電流が、パワーコンディショナの最大入力電流を超える場合、自動的に入力電力を制限します。露出配線のみ対応。隠蔽配線はできません。

5. 遠隔出力制御について

本製品は2015年1月22日公布の再電気事業者による再生可能エネルギー電気の調達に関する特別措置法施行規則の一部を改正する省令と関連告示に対応した機器です。

遠隔出力制御を行うためには、対応した以下の機器が必要です。

- ・パワーコンディショナ (遠隔出力制御対応)
- ・出力制御ユニット (送信ユニット、モニター等)

また、電力会社によっては、原則インターネット接続が必要です。

なお、インターネット回線をご準備いただく場合は、下記の費用はお客様のご負担となります。

- ・インターネット回線契約・利用に伴う費用 など

遠隔出力制御の内容につきましては、各電力会社のホームページをご覧ください。

遠隔出力制御の対応のため、出力制御ユニットのファームウェア（ソフトウェア）の更新や設置場所での作業（有償）が必要となる場合もあります。

6. 保護機能仕様

(1) 系統連系保護機能仕様

表6-1 50Hz時整定値一覧()内は60Hz時

保護機能	初期値・整定値・レベル・時限等	
系統過電圧 (OVR) U, W相個別設定	検出相数 検出レベル 検出時間 解列箇所	2相(単相3線式の中性線と両側電圧間) 115V(整定値範囲: 110~120V: 設定ステップ2.5V) 1.0秒(整定値範囲: 0.5~2秒: 設定ステップ0.5秒) 機械的開閉箇所+ゲートブロック
系統不足電圧 (UVR) U, W相個別設定	検出相数 検出レベル 検出時間 解列箇所	2相(単相3線式の中性線と両側電圧間) 80V(整定値範囲: 80~90V: 設定ステップ2.5V) 1.0秒(整定値範囲: 0.5~2秒: 設定ステップ0.5秒) 機械的開閉箇所+ゲートブロック
系統過周波数 (OFR)	検出相数 検出レベル 検出時間 解列箇所	1相(単相3線式の中性線と片側電圧間) 50Hz地区51.0Hz(整定値範囲50.5~52.5Hz: 設定ステップ0.5Hz) 60Hz地区61.2Hz(整定値範囲60.6~63.0Hz: 設定ステップ0.6Hz) 1.0秒(整定値範囲 0.5~2秒: 設定ステップ0.5秒) 機械的開閉箇所+ゲートブロック
周波数低下 (UFR)	検出相数 検出レベル 検出時間 解列箇所	1相(単相3線式の中性線と片側電圧間) 50Hz地区47.5Hz(整定値範囲 47.5~49.5Hz: 設定ステップ0.5Hz) 60Hz地区58.8Hz(整定値範囲 57.0~59.4Hz: 設定ステップ0.6Hz) 1.0秒(整定値範囲 0.5~2秒: 設定ステップ0.5秒) 機械的開閉箇所+ゲートブロック
保護リレー復帰時間	整定値	300秒(整定値範囲 10, 150, 300秒、手動復帰)
電圧上昇抑制レベル	制御方法 検出レベル	有効電力制御(0に制御) 109V(整定値範囲 107~113V: 設定ステップ0.5V)
受動的単独運転検出	方式 検出レベル 検出時間 保持時限 解列箇所	電圧位相跳躍検出方式 位相変化8度(整定値範囲 6~12度: 設定ステップ2度) 0.5秒以内(整定値固定) — 機械的開閉箇所+ゲートブロック
能動的単独運転検出	方式 検出レベル 解列時限 解列箇所	ステップ注入付周波数フィードバック方式 周波数1.2Hz 瞬時(0.2秒以内/整定値固定) 機械的開閉箇所+ゲートブロック
逆電力 RPR	検出レベル 検出時限	— —
直流分検出	検出レベル 検出時間 解列箇所	230mA(整定値固定) 0.4秒(整定値固定) 機械的開閉箇所+ゲートブロック
直流過電圧 DCOVR	検出レベル 検出時間 解列箇所	450V(整定値固定) 0.3秒(整定値固定) 機械的開閉箇所+ゲートブロック

直流不足電圧 DCUVR	検出レベル 検出時間 解列箇所	50V(整定値固定) 0.4秒(整定値固定) ゲートブロック
交流過電流 ACOC	検出レベル 検出時間 解列箇所	32.0A(整定値固定) 0.4秒(整定値固定) 機械的開閉箇所+ゲートブロック
瞬時交流過電圧 OVR	検出レベル 検出時間	130V(整定値固定) 0.4秒(整定値固定) 機械的開閉箇所+ゲートブロック
DC地絡	検出時限	0.5秒以内(整定値範囲 0.5~1.5秒) 設定ステップ 0.5秒

(2) パワーコンディショナ自己診断機能

パワーコンディショナ本体の保護機能動作時、系統の停電などを検出した場合、本体表示部に点検コードを表示します。コードが「E」で始まるものは系統側、「F」で始まるものはパワーコンディショナ側を意味します。リモコンに「F」で始まる点検コード表示の際、リモコンのブザー音を鳴らします。(リモコンの運転/停止スイッチを停止状態にすることにより、リモコンのブザー音は停止します。パワコン本体のブザー音の有無は設定可能です。)

表6-2にパワーコンディショナの点検コード一覧表を示します。点検コードは、リモコンでは、「総積算SW」を5秒以上長押しして抑制時間を表示させた後に「総積算SW」を再度10秒以上長押しします。その後「総積算SW」を押すことで、一方本体では、本体表示基板上の「エラー呼び出しSW」を押すことで過去に遡って(最大8個)確認することが可能です。ただし、必ずしも一致するものではありません。

表6-2 点検コード内容一覧

系統側に関する点検コード内容(E-××)		
点検コード	項目	内容
E 1	系統過周波数	系統過周波数検出
E 2	系統不足周波数	系統不足周波数検出
E 3	U-0相不足電圧	U-0相系統不足電圧検出
E 4	U-0相過電圧	U-0相系統過電圧検出
E 5	W-0相不足電圧	W-0相系統不足電圧検出
E 6	W-0相過電圧	W-0相系統過電圧検出
E 7	位相跳躍	位相跳躍検出
E 8	高速単独運転	高速単独運転検出
E 9	U-0相瞬時過電圧	U-0相瞬時過電圧検出
E 10	W-0相瞬時過電圧	W-0相瞬時過電圧検出
E 11	停電検出	停電検出
E 12	系統周波数未決定	系統周波数未決定
E 13	U-0相遮断過電圧	U-0相遮断過電圧検出
E 14	W-0相遮断過電圧	W-0相遮断過電圧検出
E 99	系統異常手動復帰待ち	系統異常からの手動復帰待ち

パワーコンディショナ側に関する点検コード内容(F-××)		
点検コード	項目	内容
F 1	I P Mアラーム	I P Mエラー信号検出
F 2	交流瞬時過電流検出	交流瞬時過電流検出 (43 A以上)
F 3	直流過電圧	直流過電圧検出 (450 V以上)
F 4	地絡検出	地絡検出 (±100 mA以上)
F 5	不揮発メモリ異常	不揮発メモリ異常
F 6	昇圧過電圧	昇圧後電圧の過電圧検出 (455 V以上)
F 7	昇圧瞬時過電圧	昇圧後電圧の瞬時過電圧検出 (460 V以上)
F 8	直流成分検出	インバータ直流成分検出 (±220 mA以上)
F 9	交流過電流	交流過電流検出 (32 A r m s 以上)
F 1 2	内部温度上昇異常	放熱板の温度異常 (90. 0℃以上)
F 1 3	温度センサ異常	ヒートシンク用サーミスタのオープン・ショート検出
F 1 4	補正值異常	センサの補正值異常
F 1 5	昇圧電圧回路異常1	昇圧電圧回路の故障
F 1 6	発電上限指示値受信異常	送信ユニットとの通信断絶
F 1 8	昇圧不足電圧	目標電圧値未昇圧
F 1 9	交流端子台温度異常	温度ヒューズ動作検出
F 2 0	端子台U-O間誤接続	U-O間誤接続検出 (140 V以上)
F 2 1	端子台W-O間誤接続	W-O間誤接続検出 (140 V以上)
F 2 4	地絡センサ異常	直流地絡センサ異常検出
F 2 5	交流・直流電力不一致	交流・直流電力不一致
F 2 6	直流電流センサ異常	直流電流センサ異常
F 2 7	交流電流センサ異常	交流電流センサ異常
F 3 2	系統リレー溶着検出	系統解列用リレー接点の溶着を検出
F 3 3	系統リレー接続不可	系統解列用リレー接続不可時
F 3 5	パワコンアドレス重複	パワコンアドレス重複
F 3 6	直流過電流	直流過電流検出 (44. 5 A以上)
F 3 7	外部停止信号	外部停止信号を検出
F 4 2	ファン異常	内部ファンロック信号検出
F 4 5	昇圧電圧回路異常 2	昇圧電圧回路異常を検出

点検コード	項目	内容
F 4 7 (※1)	リモコン通信異常	本体と同じアドレスのリモコンとの通信異常検出
F 5 7	交流瞬時過電流 or 交流過	F 2 もしくは F 9 を 8 回検出
F 5 8	I P M アラーム多数回	F 1 を 8 回検出
F 5 9	地絡多数回	F 4 を 8 回検出
F 6 0	直流成分検出多数回	F 8 を 8 回検出
F 6 1	昇圧過電圧 or 昇圧瞬時過電圧 or 昇圧電圧回路異常 2 多数回	F 6、F 7、F 4 5 を 8 回検出
F 6 3	内部温度上昇異常多数回	F 1 2 を 8 回検出
F 6 5	直流過電圧多数回	F 3 を 8 回検出
F 6 6	直流過電流多数回	F 3 6 を 8 回検出
L 2 (※2)	一括制御リモコン重複	一括制御リモコン重複

※直流不足電圧に対する点検コード表示は行いません。

※点検コード履歴はリモコンではリモコン上のスイッチを操作することにより、また本体では本体基板上の押しボタンスイッチを操作することにより、確認および消去可能です。

(※1)は本体のみに表示するエラーコードです。

(※2)はリモコンのみに表示するエラーコードです。

7. 試験・検査

下記に示す試験項目を検査工程にて行ない、検査成績書を製品に同梱します。

[試験項目]

- (1) 外観・構造検査
- (2) 絶縁性能試験
- (3) 耐電圧性能試験
- (4) 保護性能試験
 - ① 交流過電圧試験 (OVR)
 - ② 交流不足電圧試験 (UVR)
 - ③ 交流過周波数試験 (OFR)
 - ④ 交流不足周波数試験 (UFR)
 - ⑤ 単独運転防止検査
 - ⑥ 復電後の一定時間投入阻止検査
- (5) 定格時特性試験 (効率・力率・高調波含有率)

8. 据付工事に関する注意事項

- (1) パワーコンディショナは壁面に正しい方向で取り付けてください。
- (2) パワーコンディショナの質量(壁取り付け板などを含め約 30 kg)に十分耐える壁構造が必要です。
- (3) パワーコンディショナは水平に設置してください。
- (4) パワーコンディショナの前面には点検スペースとして 800mm 以上を確保することを推奨します。また、上下左右は放熱スペース及び点検のために、図8-1に示すスペースが必要です。パワーコンディショナに同梱されている施工説明書を参照の上、正しく据付けてください。

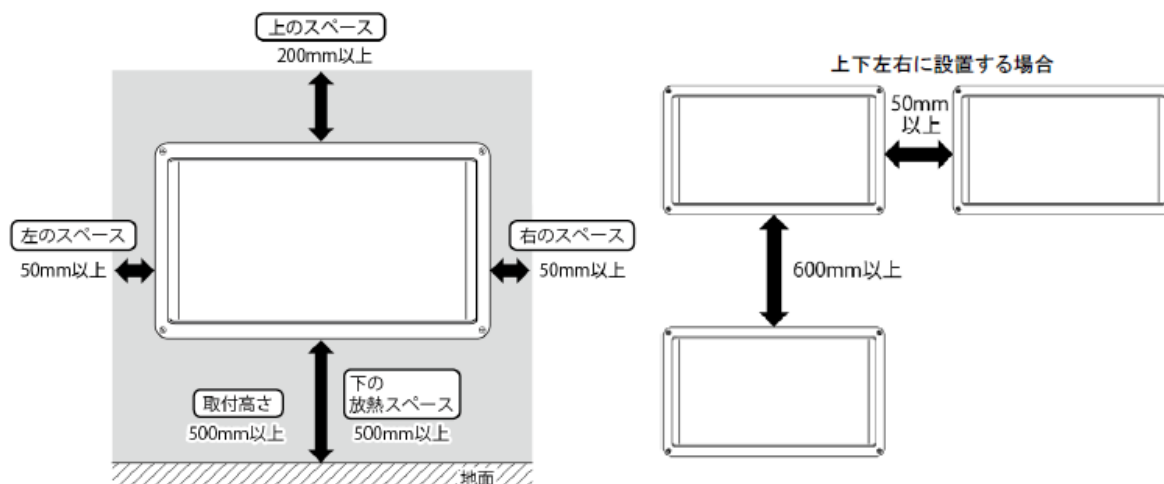


図8-1 壁面取り付け時の周囲との最低スペース

※上下設置する場合は2台までとしてください。

※設置場所により、上記寸法の他に操作スペース・工事スペース等を確保する必要があります。

※設置場所・設置環境によっては、温度上昇抑制がかかる場合があります。

9. 使用上の注意

以下での使用は装置故障等の原因になりますので、設置および接続はしないでください。

1. 周囲温度範囲（ -20°C ～ $+50^{\circ}\text{C}$ ）の範囲外の場所、日中に直射日光の当たる場所。
2. 換気・風通しの悪い場所や夏場温度が著しく上昇する場所（屋根裏、トイレ、納戸、押入れ・床下など）、'設置に必要なスペースが確保できない場所。
3. 温度変化の激しい場所（結露のある場所）。
4. 著しく湿度の高い場所（湿度90%を超える場所）。
5. 水上および常時水を浴びる場所、住宅の屋側から離れるなどして風雨の影響を著しく受ける場所、冠水のおそれのある場所、水はけの悪い場所。
6. 塩害地域（沖縄と離島の全域、外海の海岸から1km以内、瀬戸内海の海岸から500m以内または潮風が直接あたる場所）の屋外。
海岸からの距離にかかわらず、周囲の状況により潮風の影響があると思われる場合は、塩害地域とみなしてください。
7. 積雪地域（本製品が雪に埋もれるおそれや、落雪の衝撃を受けるおそれのある場所）。
8. 標高2,000mを超える場所。
9. 上下さかさまや横倒しの設置。
10. 人の往来の妨げになる場所。
11. メンテナンスが容易に行えない場所。
12. 上下設置する場合において、3台以上を上下に設置すること。
13. ボールなどが当たるおそれのある場所（野球場・サッカー場など）。
14. ガス機器などと並列設置する場合において、燃焼ガスや排気が直接または間接的に当たる場所。
15. 過度の水蒸気・油蒸気・煙・塵埃・砂ボコリや塩分・腐食性物質・爆発性／可燃性ガス・化学薬品・火気、燃焼ガスにさらされる場所、およびさらされるおそれのある場所。
16. 高周波ノイズを発生する機器のある場所。
17. 壁の変色や排熱・機器特性上の電磁音が気になる場所。
18. 騒音について厳しい制約を受ける場所（寝室の壁への設置は避けることをおすすめします。）
19. テレビ、ラジオなどのアンテナ、アンテナ線より3m以上間隔をとれない場所。
20. 電氣的雑音の影響を受けると困る電気製品の近く。
PLC、LANなど通信を利用する機器については、相互に干渉し正常な動作が出来なくなる場合があります。
21. アマチュア無線のアンテナが近隣にある場所。
近隣にアマチュア無線のアンテナがあるところに太陽光発電システムを設置すると、太陽光発電システムの機器や配線から発生する電氣的雑音（ノイズ）を感度の高いアマチュア無線機が受信することで通信の障害となる場合があります。
22. 信号線を動力線と並走させたり、同一電線管におさめること。
23. 商用電源の電圧を制御する機器（調光器などの省エネ機など）との併用。
24. その他特殊な機器（医療機器・通信機器・発電機）への接続。
25. その他特殊な条件下（自動車・船舶など）。
（感電・火災・故障・電磁波雑音の原因になります）
26. 一括制御リモコンをパワーコンディショナ内に設置すること。
故障・動作障害のおそれがあります。

10. 専用別売品

(1) リモコン

部品名	品番	用途
一括制御リモコン※1	GP-PM204RM	リモコン1台で屋外用集中型パワーコンディショナ10台まで制御可能です。

※1. 一括制御リモコンが無くても運転できます。

(2) 設置用部材

部品名	品番	用途
屋外パワコン用平地置台セット	POKBP55UD2G	壁掛け設置が困難で自立設置が必要な場合に使用してください。

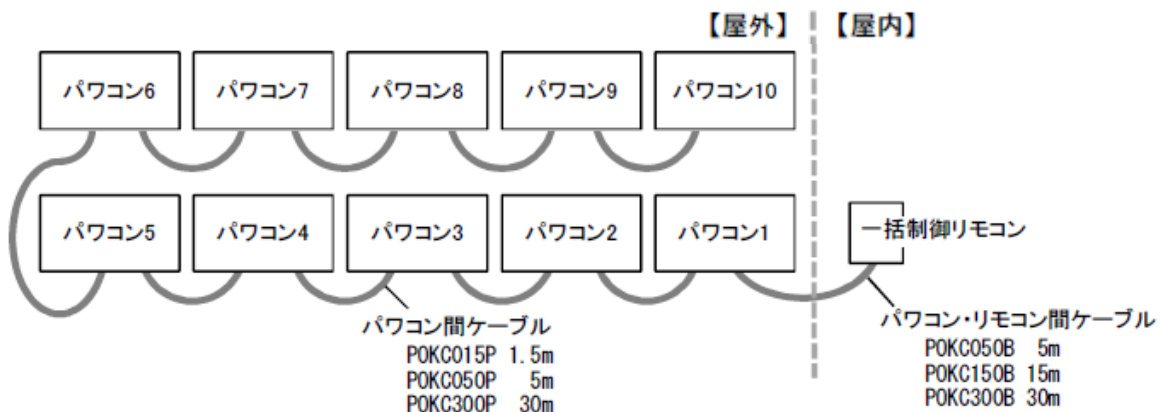
(3) 通信ケーブル

部品名	長さ	品番	用途
パワコン・リモコン間ケーブル	5m※	POKC050B	パワーコンディショナ本体とリモコンの接続用で、1台目の設置に必要です。
	15m	POKC150B	
	30m※	POKC300B	
パワコン間ケーブル	5m	POKC050P	パワーコンディショナを複数台設置し、送信ユニット/一括制御リモコンを設置する場合にパワーコンディショナ同士を接続します。
	30m※	POKC300P	
パワコン・送信 U 間ケーブル	15m	POKC150C	送信ユニットを設置する場合にパワーコンディショナと接続します。
	30m※	POKC300C	
リモコン・送信 U 間ケーブル	3m	POKC030F	送信ユニットを設置する場合にリモコンと接続します。
	15m※	POKC150F	

※非在庫品のため、注文から納品まで一月程度かかります。

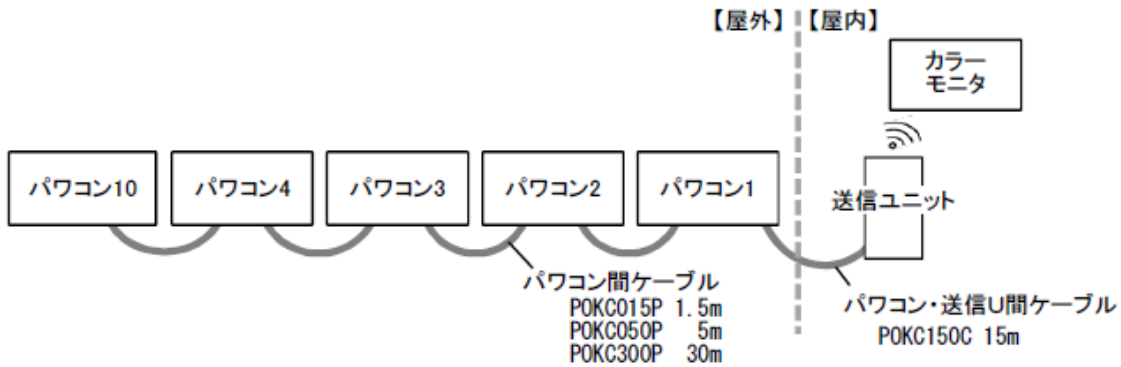
通信ケーブル配線図

- ・一括制御リモコンのみ接続の場合



・送信ユニットのみ接続の場合

※ 送信ユニットの設定が全量の場合は最大10台まで、余剰の場合は最大5台までのパソコンと接続できます。

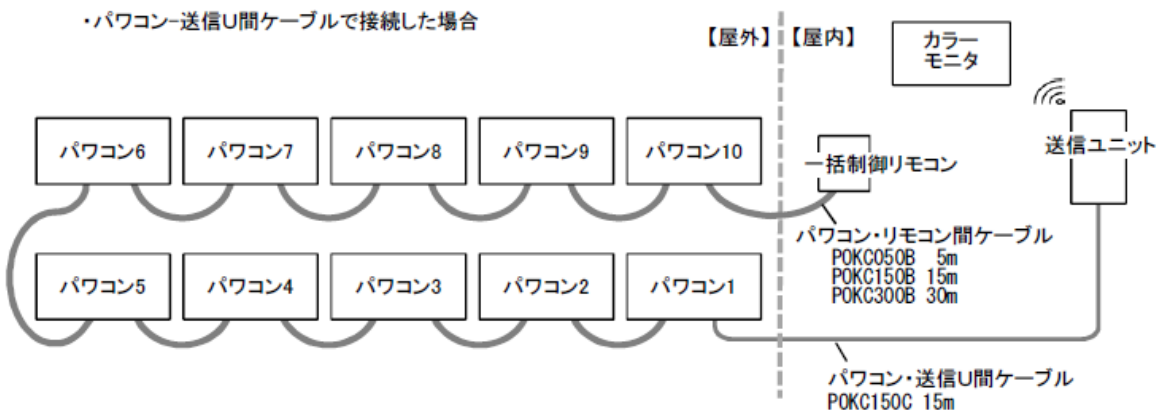


・カラーモニター、送信ユニットを接続した場合

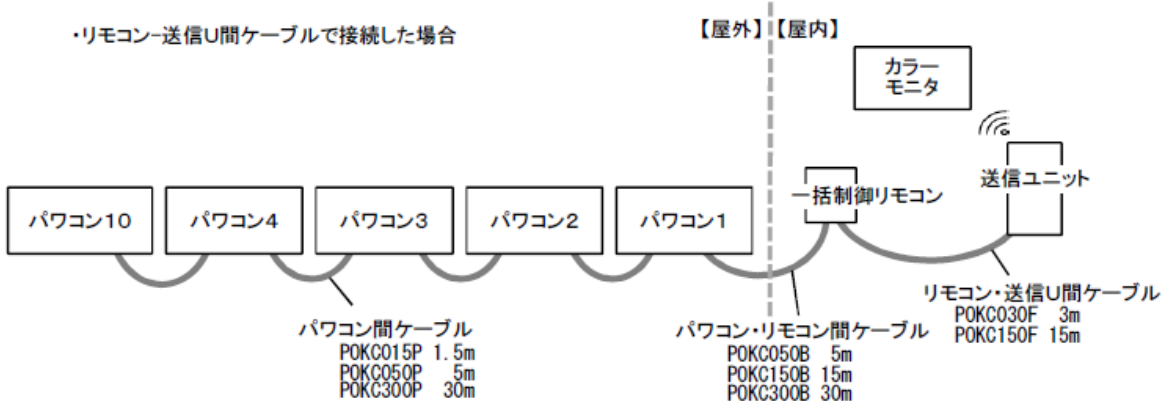
送信ユニットとパワーコンディショナを接続する場合は、リモコンを経由してリモコン-送信U間ケーブルまたはパソコン-送信U間ケーブルのどちらかの接続となります。

※ 送信ユニットの設定が全量の場合は最大10台まで、余剰の場合は最大5台までのパワーコンディショナと接続できます。

・パソコン-送信U間ケーブルで接続した場合



・リモコン-送信U間ケーブルで接続した場合



パワーコンディショナとパワーコンディショナDIPスイッチ、リモコンサービススイッチ組み合わせ表

余剰 or 全量	1~5台	6~10台	パワコン側	リモコン側
			整定値の設定 ※1  5 / 10の選択	リモコンサービススイッチ 
余剰対応	○	×	OFF	1番
全量対応	○	×	OFF	1番
	○	○	ON	2番

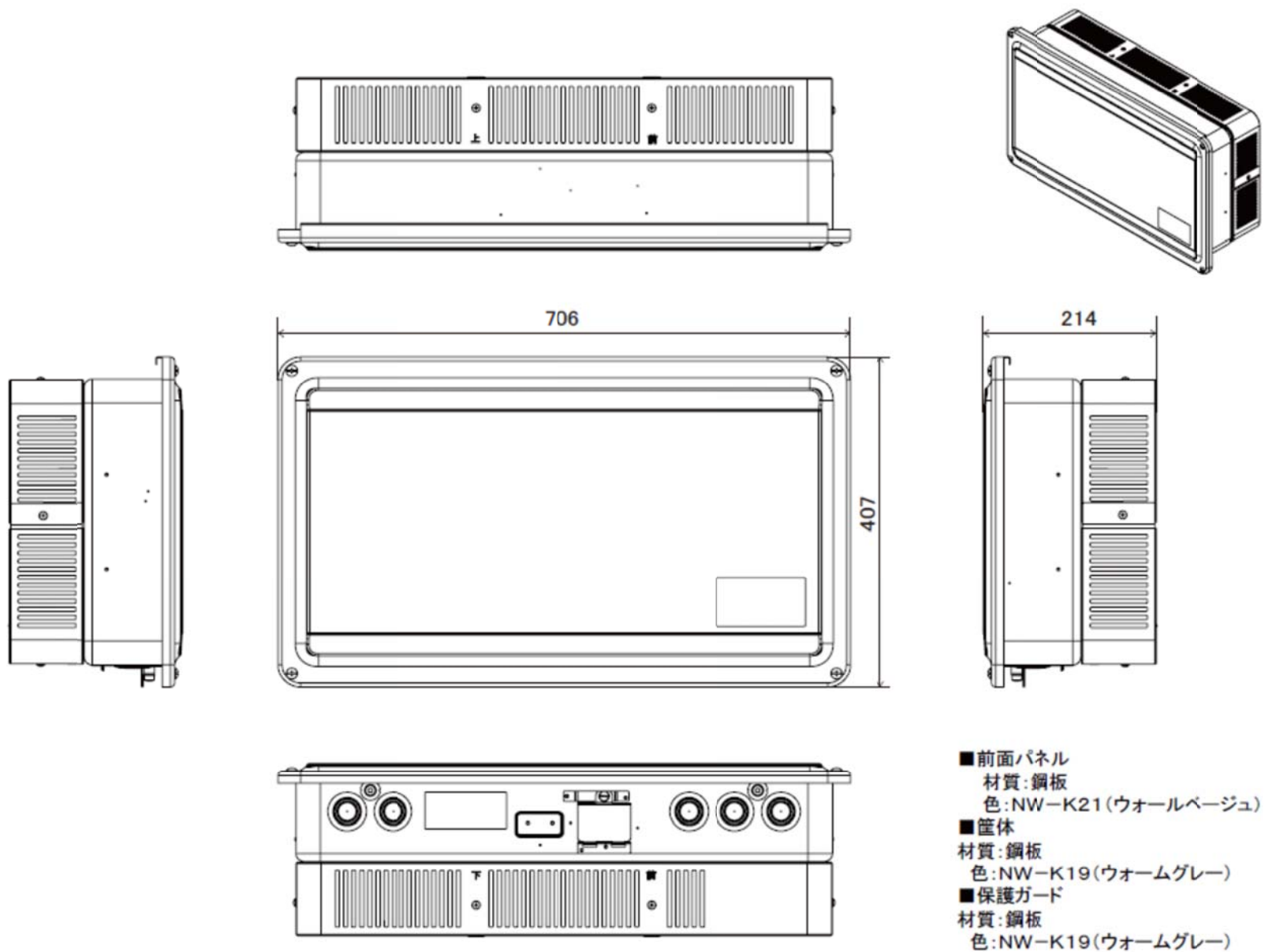
注意点

- ① 送信ユニットが余剰対応時は一括制御リモコンのサービススイッチを2番に設定すると送信ユニットとの接続はできません。
全量対応時は接続可能です。
余剰対応でのパワーコンディショナの接続は最大5台まで、全量対応は最大10台までです。
 - ② 送信ユニットの余剰対応時、主幹の電流測定は最大120Aまでとなりますので、パワーコンディショナの接続台数にご注意ください。
 - ③ リモコンサービススイッチの設定は、上記以外の設定をしないでください。
詳細についてはパワーコンディショナの施工説明書をご参照ください。
- ※1. 7セグ表示はパワーコンディショナの前パネルを開けないと見えません。

11. その他

本仕様書に疑義が生じた場合、双方協議の上決定するものとする。

外形図



【主回路構成図】

